

idea

ニュースレター「アイデア」

2019.4

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

- 1 | 二言三言 | NPO法人いちのせき子育てネット 代表 岩渕豊子さん
- 3 | 団体紹介 | NPO法人あゆみ（一関）
- 5 | 地域紹介 | 竹野下自治会（室根）
- 7 | 企業紹介 | かぢや別館 らまっころ山猫宿（東山）
- 8 | 博識社のフクロウ博士 | 地域づくりガイダンス
- 9 | センターの自由研究 | 難解地名に挑戦！in 萩荘

今月の表紙

「センターの自由研究」の調査中に見つけた萩荘地区内の狛犬です。
今月の研究テーマは、“萩荘地区の難解地名”について！

129 / 117,114

岩渕 豊子



一関出身。保険会社勤務で全国を回り一関へＵターン。自宅で保険代理店を営む中、地域の保健推進員から一関保健センターの託児ボランティアに誘われ子育て支援に関わり始める。

その後、子育て支援に関する研修を通し、任意団体「ゆずりは」を立ち上げ2年間活動。県の事業を受託し大町商店街内のビルに子育て支援の場として「おやこ広場」を開設。平成20年には、「NPO法人いちのせき子育てネット」を設立し代表を務める。

第58回

NPO法人いちのせき子育てネット 代表 岩渕豊子さん ✕ いちのせき市民活動センター 主任 佐々木牧恵

親と子の居場所づくり ～地域の子育て世代の今を見つめる～

転勤先の神奈川県川崎市で子育てをしていた際、「困りごとがあればすぐに周りのおばちゃん達が家に駆けつけ助けてくれた」と話す岩渕さん。そのご恩を一関で返し、いと子育て支援の活動に携わり、20年間地域の子育てを見つめてきました。そんな岩渕さんに、子育て環境やニーズの変化などについて伺いました。

移り変わる子育て環境

佐々木 岩渕さんは平成11年頃から子育て支援に関わり始めたというのですが、当時から今のようないな支援スタイルだったのでしょうか？

岩渕 その当時は一関に子育てサークルがたくさんあって。その人達に声をかけて「どんなことをしてほしい？」と聞いたたら「自分の時間がほしい」「美容室に行きたい」「一人で熱いコーヒーを飲みたい」「病院に行きたい」と話すので、それならお子さんを預かるねというところで託児を始めたんです。ところがある日、「今日はどこにも出かけないので、私もここで一緒に遊んじやだめですか？」と言われて。そこからお母さんと子どもと私達とで3人が一緒に遊び始める居場所づくりが始まっていったんですね。

佐々木 なるほど。利用者さんたちの真のニーズは「託児」より「一緒に遊ぶ場所」だったと。利用者

さんの数は増えていきますか？

岩渕 当初は月2回で1回の利用者が5、6人でしたが、おやこ広場ができて週5日になり、一時は増えたけど最近はかなり減っています。今は働くことを選択しているお母さん達が多くて。ある程度保育料が安くなったということもあり、こんなに利用料が安いなら働いた方がよいと思うお母さんが増えていくようです。

佐々木 そうですか。ではここを利用している方達というのは？

岩渕 どちらかというと地元の方より転勤族のみな。旦那さんが働いて、お母さんは専業主婦の方とか、働きたいけど転勤のたびに職場を見つけないのが大変だから働いていない方とか。地元の人の場合には働かないことを何だか申し訳なく感じがちなのかも。

佐々木 私も経験しましたが、本当に肩身が狭いですよね。暇人扱

いされるから。ゆつくり子育てすることが悪いことみたいで。その影響か、前に全国で話題になった「保育園落ちた死ね」が「保育園落ちてほしい」に変わっているという話をお聞きしました。「待機児童」という名目でしかゆつくり子育てができないというか。

岩渕 直接は言わないけれど、本音は2〜3歳まで子育てをしたいのよね。私達の時は専業主婦が当たり前でした。働いても結婚したら辞めて、子育てが落ち着いて暇になったらパートで働くくらいだったでしょ。でも今は人口が減っているから、社会を支えていくには子育て世代のお母さん達まで働かなければならない。

佐々木 ゆつくり子育てするなんて、夢のまた夢みたいですよ。

支えたいのは「お母さん」

佐々木 子育てサークルとこのような場の違いは何でしょう。

岩渕 ここに来ると自分たちは「お客さん」でしょ。サークルは全部自分たちで発案して計画して。

佐々木 ここでは、あえて企画モノはせずに、居場所づくりを？

岩渕 イベントに参加するお母さん11元気なお母さんだから。イベントに行けず、イベントを避けて来るお母さんにこそ支援が必要なので。皆と騒げる人は支援が必要ない人、自分で自分の言いたいことも言えるし。本当は言いたいことがあるけれど、殻にこもって言えない人もいるので、そんな人にこそ本当は支援が必要なのよね。

佐々木 それこそ転勤族の人は周りに家族も友達もいないですからね。そう考えると、岩渕さんたちは子ども達を見ているというより、お母さんを見ているという感じなのでしょうか。つまりここは子ども達の場というよりはお母さん達の居場所？

岩渕 お母さんというか、子育てしている人達の居場所かな。子どものためなら、ここに来ないで外で遊んだ方が良いでしょう。

佐々木 確かに。でも今のお話ですと、子どもが好きで保育士さんになる人がいても、相手が子どもではなくお母さん達だと思えば逆

というか、子どもが好きなだけでは務まらないですよ。

岩渕 保育士さんが保育士を辞める理由がお母さんだというケースが少なくないのだそうです。子どもは好きだけど、お母さんとの関係に悩み辞めるという。

佐々木 そうなるとやはり、岩渕さんたちの存在は貴重ですね(笑)

「関わり方」を見て学ぶ

佐々木 20年もの間子育て支援に関わってきて、今の需要としては何を感じていますか？

岩渕 子どもとの関わり方を見ている人たちがいるのよね。母親としてどうやって自分の子どもに関わったらよいか、一生懸命に見て考えているの。

佐々木 相談するわけではなく、岩渕さんと子どもが関わるのをただ見ている？

岩渕 そう。ジッとみられているのがわかるの。泣いた時、ワーツと子どもが怒った時、どうしたら良いんだろうっていうのを観察

されているというのはすごくある。

佐々木 確かに私も見てしまえますね。言葉で「こうするんだよ」って言われてもわかりにくいので、見て吸収したい。

岩渕 こちらも言葉で伝えるよりやってそれを見ていただいた方がいいし。泣いた時は高い高いしてあげるとか、ぐずった時のなだめ方とか、気分転換のさせ方とか。

佐々木 そういう技を自然に学べる場はありがたいですよ。子どもとの関わり方に悩むことは誰しもあるはずだし。

岩渕 自分一人で子育ての責任を背負わない方が良くと思います。助けてほしい時は声を出しましょう。「私こんな状態なんです」「助けて」って言うような社会になつてほしいんだけど。岩手の人達はなかなか言わないからね。「一人で抱え込まないで」と言いたいね。



おやこ広場

住所: 〒021-0881
一関市大町 4-29
なのはなプラザ1 階
電話: 0191-26-6401

団体 紹介

「ともに歩み ともに笑う」

NPO法人あゆみ

平成 28 年に住宅型有料老人ホームを開設。「介護・看護・医療」を中心とした事業を通じ、地域に愛され、多様な形で社会貢献に寄与することを目指しています。

〒021-0002 一関市中里字荒谷 8-1
TEL:0191-21-5550

偶然か必然か？

NPO 法人あゆみ（以下「あゆみ」）の理事長をしている杉浦秀次さんは元々東京都出身で、6 代続く実家の日本料理店を継ぎ、経営者・職人として腕を振るっていましたが、そんな杉浦さんに、奥様のご両親（一関市在住）が事故に遭い、介護が必要な状況になるといふ突然の転機が訪れます。決して簡単な決断ではありませんでしたが、話し合いの末、店は甥に任せ杉浦さん夫婦が一関に移住するということに。

こうして一関で暮らすことになった杉浦さんは、新しい暮らしの中で、親の介護のこと、自分によそから来た新参者であることなどを冷静に受け止め、逆にヨソモノ目線で一関の風習や、意識、ニーズを学ぼうと考えます。

まず介護の現場で働き始め、仕事やノウハウを学び経験を積みました。「自分が現場を経験してきたことで、介護職員の気持ち

一関

NPO法人あゆみ

わかることもあるし、現場を知らずして経営はできないと思う」そう振り返る杉浦さんの原点には、実家で中学生の頃から洗い場に立ち、厳しい料理人の現場で揉まれてきた経験があります。

一方では将来のビジョンも模索。少子高齢化で当面介護のニーズは続きそうな反面、供給が不足しているという背景と、次第に強まる「自らの思い描く介護のスタイルで地域の役にたちたい」という気持ち。前進を決断させたこの想いは徐々に様々な協力者を動かし、ついに平成 28 年、「住宅型有料老人ホームあゆみ（1 号館）」の開設という形で実を結びます。

平成 30 年には、医療依存度の高い利用者さん向けの 2 号館も開設。あゆみは現在職員数約 80 名という規模に成長しています。

「想定外だった一関への移住。あゆみの立ち上げ。これらは単なる偶然か、それとも何かの必然だったのかと考えることもある」と語る杉浦さんは「いずれにせよ何事も自分一人ではできない」と周囲への感謝も忘れません。

gallery -



季節行事
この日はみずき団子づくり。伝統行事では利用者さんが先生役になり、職員が教えられます。学ぶ姿勢も大事にしています。



あゆみ1号館
住宅型有料老人ホーム・訪問介護・デイサービス・介護支援相談室の機能を集約した法人の拠点施設。平成 28 年に開設。

サービス業としての 礼儀正しい言葉遣いと態度

あゆみでは住宅型有料老人ホームのほか、訪問介護・訪問看護・介護支援相談室・デイサービスなどの事業を展開していますが、「私達の事業はサービス業であり、利用者様やご家族様に礼儀正しい言葉遣いと態度で向き合うことが一番という信念を持っている」と杉浦さん。その言葉通り、取材で訪れた1号館や2号館でも、職員の皆さんが笑顔で優しく利用者さんに話しかけている様子が見られました。

デイサービスのプログラムも多彩で、レクリエーション介護士1級を持つ職員もおり、「玉入れ」「空き缶積み上げゲーム」「タオル体操」など、利用者さんに楽しんでもらいながら無理のない範囲で体や指、頭を使う工夫をしています。

また、外部から歌や踊りの会の方を招いたり、季節に合わせ職員が仮装をしたり、利用者さん一人ひとりの誕生日に合わせて行う誕生日会では理事長の奥様の手作りケーキをプレゼントします。こうした様子は法人ホームページ内の「あゆみ日記」で

不定期に紹介されていて、職員が交代で更新する内容からは、書き手の優しさが伝わってきます。

社会貢献の考え方と これからのあゆみ

例えば医療・介護難民の受け皿にと、利用者さんの経済的負担にも配慮した2号館の開設。介護・清掃・厨房などの分業の仕組みづくりと、幅広い年齢（20〜70代）の80名に及ぶ雇用創出。職員の所得水準の底上げと資格取得への時間的・経済的支援等。こうしたあゆみの様々な取り組みからは、NPO法人としての社会貢献への意識、そして「利用者様が安価で利用できる」「職員の所得向上」という杉浦さんの想いが伺えます。

「経営的には自分の首を絞めている訳ですが」と苦笑いしつつ「所得向上には、職員やその家族が自分の可能性やネットワークを広げ、何かの形で一関のために役立ててほしいという期待も込めている」という杉浦さん。「一方で職員には目標を決めてスキルと人間力を高めてほしいし、職員が自主性、やる気を持って『こうしていきたい』という思いに寄り添っていききたい」と続けます。

あなたにとっての座右の銘は？

理事長



すぎうらしゅうじ
杉浦秀次さん

環境の激変を乗り越え自らNPO法人を設立。理事長として80人の職員を束ねる。

あゆみ1号館施設長

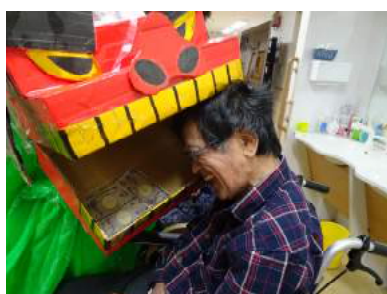


みうらひろき
三浦浩喜さん

平成28年のあゆみ1号館立ち上げ当初からの職員。現在は施設長として笑顔であゆみを支える。

「知名度のないあゆみを信頼して選んでくれた、第1号の利用者様がいて今のあゆみがある」と杉浦さんは振り返ります。あゆみはこれからも共に歩み、共に笑っていくことでしょう。

- Photo



獅子舞ちゃん

時には職員が様々な仮装で利用者さんを楽しませます。この日は「獅子舞ちゃん」が利用者さんの頭をカミカミして邪気払い。



3周年ロゴマーク

「あゆみ」の名称に込めた、覚えやすく明るく、職員が利用者様と一緒に歩いて学ばせて頂く」という意図をロゴにも反映。



竹野下自治会

昭和 57 年発足。およそ 50 戸 170 人が暮らす山間農村集落。行政区は室根 17 区で津谷川地域にあたる。総務部、生活環境部、体育部、産業部、地域振興部、女性部の 6 部会＋自主防災会などを組織。

多様な活動で 顔の見える地域づくり

県道 18 号線を室根から本吉方面に車を走らせていると目に留まる「ホタルの里」と書かれた手作りの看板。竹野下自治会の地区会館はこの看板のすぐ隣です。

取材の依頼をすると、「うちの自治会で良ければどうぞ。ホタルの活動は落ち着きましたが、他にもいろいろとやっていますから」と、良い意味で期待を裏切ってお返事がさりと返ってきました。

年越しそばを手打ちする「男の料理教室」や、30 人以上が参加する「温泉ツアー」、新成人や新婚カップル、歳祝いの人を招待して開催する新年交賀会など、お話しを伺うと確かに約 50 戸という小規模集落とは思えないような多様な活動をしていることが判明。

今回は住民間の親睦を深める機会を、自然に、かつしっかりと創り出している同自治会の活動について、自治会長の及川達雄さんにお伺いしました。

室根

竹野下自治会

里芋と「いきがい」をつくる品評会

山間農村集落の同自治会。専業農家は少なくなってしまったとのことですが、そのほかの家でも兼業農家として田畑を有しています。そこで毎年開催しているのが農産物品評会です。農家組合で仕入れた種芋を全戸に配布し、収穫した里芋を秋の収穫祭に出品します。収穫祭で賞をもらった里芋はさらに室根全体の産業文化祭に出品されるという栄誉もあり、ほぼ全戸が栽培に参加しているというから驚きです。

収穫祭の品評会には里芋だけでなく、様々な野菜が出品されます。また、安価で野菜が並ぶ青空市（野菜市）も開催されるため、最近では集落外の人もお客さんとして訪れるのだとか。

「せっかくみんなで里芋を育てるのだから、その里芋を使った料理教室などにもつなげていければ」と、及川さんの頭には今後の展開も浮かんでいます。

gallery -



手作りの看板

「ホタルの里」と書かれた手作りの看板。ホタルが実際に見えるのはこの看板付近の川ではなく、山あいの沢や水路とのこと。



自主防災会の避難訓練は地区民が多く集まる収穫祭に合わせて行います。有事の際の役割は地区会館に掲示されています。

収穫祭で防災避難訓練

「どうせやるなら」 熱の入った集落行事

里芋の全戸配布に驚いていると「毎年8月15日に行う夏まつりの花火もすごいんだよ」と誇らしそうな及川さん。

毎年、講習会の受講が必須というレベルの花火を仙台から仕入れるという同自治会。その額は毎年10万円超！どうせなら見ごたえのあるものをと、集落内から花火のための寄付もあるという熱の入れようです。

ゲストを呼んでの歌謡ショーや屋台なども並び、帰省者も含めた老若男女が地区会館前に集います。

また、10年以上続けているという「男の料理教室」には15名ほどが毎年集まります。12月にそば打ちの先生をお呼びしてそば打ち教室を行うそうですが、それはあくまでも練習。練習の成果は大晦日に再度集まって作る年越しそばに発揮されます。年に一度のこの機会のためにみなさん自前のそば打ち道具を用意しているのだそうです。

そんな同自治会の活動を支えるのは6つの部会の部長・部員さんたち。体育部や地域振興部(青年部を改名)には若い世代も揃います。

「部長さんの考えを吸収し、意欲的に取り組める環境づくりをすることが自治会長の役目」と話す及川さんですが、室根図書館の館長を務めた経歴も活かし、「自治会活動でも図書館の有効活用を図りたい」と、自身の目標も忘れません。

自然を活かし 集落環境を守る

そもそも「ホタルの棲む里づくり」に自治会として取り組んだのも当時の青年部たちの「この自然を活かして何かできないか」という発想でした。ちょうど当時の自治会長さんが理科の教員だったこともあり、ホタルの餌となるカワニナを放し、ホタルを呼び寄せ、育てることに取り組みました。先進地の視察に行くなど熱心に活動続けた結果、見事にゲンジボタルが飛び交うようになり、ホタルまつりを開催していた時期も。

現在はカワニナも定着し、改めて取り組みなくてもホタルを楽しむことができるようになったことから、ささやかなホタル観賞会を行う程度とありますが、その環境を保ち続けることができているのは、日頃の自治会活動の賜物と言えます。

Q. 集落の自慢はなんですか？

自治会長



おいかわ たつお
及川達雄さん

竹野下自治会長(1期1年目)。副会長を2期務め、平成30年度より自治会長へ。

A. ①おいしい里いもをみんな栽培しています②ゲンジボタルが飛んでいます③盛大な夏祭りを行っています

日下商店の看板娘



くさか ていこ
日下貞子さん

地区会館のすぐ横で商店を営んでいるため、会館の鍵を管理しています。

A. 超自然！夏はホタルが飛びかいおだやかな住みよい里です。

ささやかと言っても30〜40人が鑑賞会に集まるということですから、ホタルを介した交流は今も昔も地域住民をつないでいます。

- Photo



同自治会では長年「謡い」に取り組んでおり、新年交歓会等の場で披露されます。新年交歓会のしおりに同自治会のロゴマークを発見！

継承される「祝謡」



収穫祭で開催される青空市での1コマ。パパと一緒に小さなお子さんがりんご販売のお手伝い。地域の中で子どもたちも育ちます。

企業
紹介

鍛冶屋業から発展し、江戸時代中期からは旅館業を営んできた「かぢや旅館」。日本百景 狛鼻溪が世に広まり、狛鼻溪舟下り創業の宿でもあります。かぢや別館は、昭和 50 年に新築。「らまっころ山猫宿」の名称は、旧東山長坂村縁^{ゆかり}の偉人・宮沢賢治が書いた「注文の多い料理店」の「山猫軒」からヒントを得ています。その世界観を表現する可愛い猫の置き物が、お客様を出迎えます。

再び蘇る、おもてなしのDNAでつなぐ宿

今も昔も変わらず
「おかえりなさい」

「ここで旅館を営む理由は1つしかないと思っています」。東山町で代々旅館業を営む「かぢや別館らまっころ山猫宿」の女将（創業から17代目）、菅原行奈^{あんな}さんの力強い一言です。菅原さんは、5人姉弟の長女で、高校卒業後は進学・就職・結婚などで地元を23年離れ過ごしてきました。

そんな菅原さんが、生まれ育った故郷で代々継承されてきた旅館業を引き継ぐためリターンしたのは平成17年4月のことでした。

当時のかぢや旅館（本館の一部は代々菅原家の住宅として利用していた）は、菅原さんの母（16代目）の女将引退を機に、別の方が経営を引き継いでいました。しかし水害による建物への影響（平成14年の台風6号）や経営の傾きなどが重なり、旅館を閉館せざるを得ない状況に陥り、平成16年には完全に旅館としての機能を失ってしまいました。「このときほどショックなことはなかった」と菅原さんは当時を振り返り「この地この場所ですべてを受け継がれた宿。私たちが生まれ育った家。絶対に無くしてはならない。そんな強い思いが私を故郷に呼び寄

せたのだと思います」と続けます。同じく旅館の復活に想いを寄せ、経営の先輩である妹さんの協力の下、「東山に来て下さったお客様が安心して泊まれる施設の提供を」と経営体制を一新し、別館は宿として復活することができました。

明治の建物でもある本館は、旅館としての復活までには至りませんでした。が、平成29年春のGWと、秋の唐梅館絵巻期間中には、本館の一部スペースを開放。地元内外の個人作家による手作り雑貨などを販売する「うれし市」を開催し、人々が集える場所へと蘇りました。

これまでの継承と
これからの継承

菅原さんは家業を継ぐ以前、一度も経営や接客に携わることはなかったのですが、女将として自然とお客様と向き合う中で、「私達には『おもてな

しのDNAが流れているのだ』と感じた」と語ります。

今年4月17日にグランドオープンする、かぢや旅館の新たな取り組み「Cafe&GuestHouse Kaziyal」（「カフェ&ゲストハウス カチヤ」取材時はリノベーション中）は、菅原さんの息子さん夫婦（18代目）が運営し、若年層や地域住民の交流の場、海外や地域外からのお客様のほっと落ち着ける場として新たな歴史を刻みます。おもてなしのDNAはさらに輪を広げ受け継がれていくことでしょう。

菅原さんは、「閉館からの復活は簡単なことではありませんでしたが、ご先祖様がこの地で旅館業を営んできたその想いを継承しつつ新たな風を吹き込み、地域に恩返しをしながら、地元の情報発信・雇用・潤いに努めていきたい」と語ってくださいました。



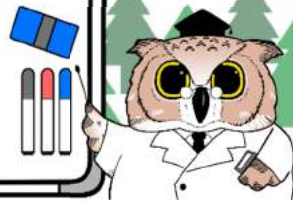
- 1 17代女将 菅原行奈さん
- 2 郷土料理を盛り込んだお料理
- 3 落ち着きある園庭

DATA

〒029-0302
一関市東山町長坂字町 42
TEL : 0191-47-3377
HP : <https://www.ramatkor.com>

今月のテーマ

地域づくり ガイダンス



博識杜の フクロウ博士

「まち」とはかなり私的な概念であり、時と場合と人によって、その領域は大きく変化します。つまりは、その言葉が使われる機会の数だけ「まち」があると言っても過言ではありません。

では、「まちづくり」とは何なのか？それは『**まちに暮らすすべての人々が、豊かな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、幸福な人生を送れるような環境を整えること**』です。この場合の「環境」とは、人々の暮らしを包む全ての環境（自然、景観、社会、経済、文化等）を指します。かつては「まちづくり」という言葉は、地域開発や都市建設と似通ったニュアンスで使われていた時期もありました。その時代は、人口や産業が都市部に集中する「都市の時代」で、人が集まり、産業が集まることにより都市部の経済活動は活発になりましたが、公害問題や生活環境の悪化、コミュニティの崩壊など経済成長が生んだマイナス面も目につくようになりました。

一方、地方では、中心市街地の衰退、農林業の担い手不足、少子高齢化、若者の減少、雇用の不安定など様々な課題を抱えるようになりました。その結果、**地方に住む人たちは、幸せに暮らせるか不安を抱え、「経済的豊かさ」だけではなく「豊かさ」を求めるようになり、それが今のまちづくりの概念につながってきています。**

「まちづくり」は大きく2つに分けられる

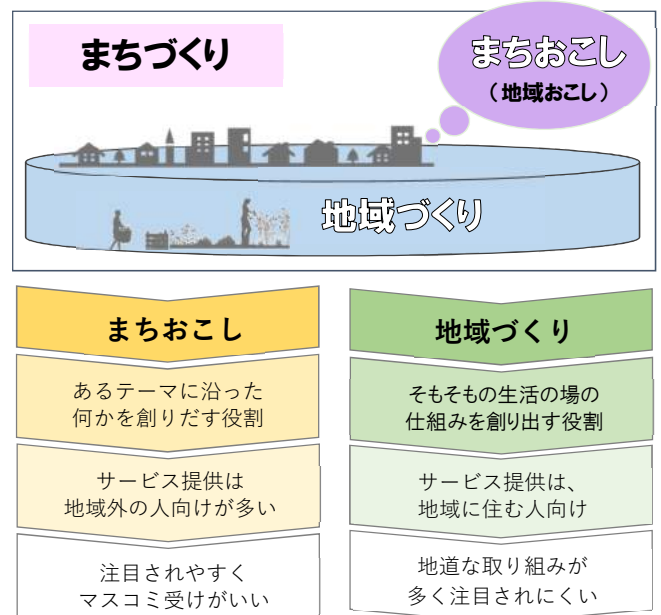
衰退した地域の復興を目指す再生活動を概念とする「まちづくり」ですが、その言葉の意味は広く、私たち市民レベルでの活動は、活動規模の大小は違えど、大きく二つに分けて考えることができます。

「**まちおこし**」は、どちらかと言うと**テーマに賛同した市民の集まり**で実施されることが多く、広いエリアで活動する傾向があります。一方で、「**地域づくり**」は、**生活する場を基盤とした地縁組織で活動**します。「**地域おこし**」となった場合は、生活する場を基盤とした地縁組織の活動もありますが、サービス提供の視点は、まちおこしと同様に地域の外に向くことが多いです。

ちょっとややこしいですね。もう少し分かりやすく解説してみると、**地域おこし**は、地域の資源に着目し、それを活かしながら活動をするのですが、「うちの地域はこんなものがあります！知ってください。見に来てください」というように、**サービスの提供は外に向けられる傾向が強い**と考えます。一方で、**地域づくり**は、役のなり手がいない、ごみのルールを守ってくれない、行事の参加者が少ないなど、日常の暮らしの課題に着目し活動していく活動、すなわち**住んでいる人に対して行う内向きの傾向が強い**と考えます。

地域おこしは、イベントや情報発信などの事業が多く、話題や注目にされやすく達成感も得やすいです。しかし**地域づくり**は、とても地味で地道な取り組みが多く達成感を味わいにくいこともありますが、この地味な部分こそ地域を支える基盤であり、ここを避けては住みやすい地域とは決して言うことはできないでしょう。移住定住の取り組みが盛んに行われておりますが、住む選択の一つに**コミュニティとしての住みやすさ**が求められ、地域おこしだけをやればいい訳ではなく、**地域づくりを優先的に行いながら、地域おこしの成果を得ていく考え方**が必要ではないでしょうか。

最後に、当センターでは、**まちづくり**は**全市的で広義的な意味**をもち、**地域づくり**は**生活する場を単位とした狭義的な意味**をもつと考え、用語の使い分けをします。



～100人に聞きました～ 難解地名に挑戦！ in 萩荘

難解地名シリーズ第3弾！

当センタースタッフが市内から1つの地区を選び、読むことが難しい地名を100人に聞いてみる「難解地名に挑戦！」シリーズ。

今回の対象地域は「萩荘（一関）」。果たして全問正解者は現れるのか！？

一難解地名ランキング

	地名（読みがな）	正解率
1位	忽滑沢（ぬかりざわ）	0%
2位	越河（こすご）	2%
3位	焼切（やつきり）	4%
4位	鹿鼻（ししはな）	14%
5位	居留（いどめ）	20%
6位	奥倉（おぐら）	21%
7位	問答谷地（もんどうやち）	31%
8位	下モ下釜（しもしたがま）	32%
9位	赤猪子（あかいのこ）	36%
10位	老流（おいながれ）	46%

萩荘ってどんな所？

萩荘地区は、一関工業高等学校や修紅短期大学といった教育機関などがある黒沢地区と、自鏡山（じきょうざん）や久保川（磐井川支流）などの自然に囲まれた市野々（いちのの）地区の2つの地区があり、史跡や文化が数多く残っている地区です。

調査結果をランキング形式で左表にまとめました。上から正解率の低い順に並べています。

正解率をもっとも低かった地名は、「忽滑沢（ぬかりざわ）」でした。

そして、なんと！正解者が1人もいないという初の快挙を達成。忽滑沢恐るべし・・・

※ゼンリン住宅地図に掲載されている地名の読み仮名を正解とします。
（「ガマ・カマ」「ヤチ・ヤチ」なども区別しています）

果たして忽滑沢とは一体どんな所なのか!?

現地調査をしてきました。

忽滑沢ってどう?

萩荘市民センターから国道457号線を南西へ約2km進むと、泉山停留所(なの花バス)があります。停留所を左折し、約3km道なりに進んでいくと、忽滑沢に到着します(左図参照)。ちなみに、忽滑沢は「上忽滑沢」と「下忽滑沢」に分かれています。

今回、萩荘市民センター所長の佐藤洋一さんと主任の渋谷早苗さんが、ご厚意で調査に同行してくださいました。

“いざ、探検へ!”



神社を探す佐藤さんと渋谷さん

忽滑沢探検隊が行く

3人で忽滑沢を歩いてみると、民家はなく、1本の道路を挟んで田んぼや林が大部分を占める静かな場所でした。

そんな中、上忽滑沢に「よその方にはあまり知られていない『天神社(あまさじんじゃ)』という神社がある」という情報入手し、その場所へ向かうと・・・着いた先は、林の中。この林の一体どこに神社が!? 探検隊は、「神社がある」という情報だけを頼りに探す、探す、探す・・・しかし、神社らしいものは見つからず、近くに住む方に聞き込みを試みることに。

すると、忽滑沢に隣接している苅又(かりまた)で、神社を知っているという井上ご夫妻を発見! 旦那さんが神社まで案内してくださるということで、再び向かった先は・・・

林の中に鳥居を発見!

なんと先程まで3人でさんざん神社を探し回った場所。「あそこに鳥居があるんだよ」と旦那さんが指を指すと、周りの色と同化している石の鳥居を発見!

鳥居を通過し、神社があるという方向へ。しかし・・・

あまりの道の険しさにこれ以上進むのは危険という判断から、調査を断念するというまさかの結末。リベンジを心に誓い、探検隊は帰路につきました。

忽滑沢について

探検後、地名の由来についてご夫妻に伺うと、「昔、切った竹を馬で運び、町まで売りに行っていたそうですが、この地域は土がやわらかいため、馬が滑り、ぬかるんでいたことから『忽滑沢』という地名になったといわれているそうです」とのこと。

また、「地元の人でも忽滑沢の地名は読める人が少ない」とお話しされていました。



“天神社”の鳥居

《萩荘難解地名ランキング1位の「忽滑沢」調査結果》

忽滑沢は、民家のない静かな山間部で、昔は柔らかくぬかるみやすい場所でした。

取材協力：萩荘市民センター

お知らせ

募集

平成31年度 集落参観日 受け入れ集落募集

「集落参観日」とは、地域づくり活動のマンネリ化や、地域の抱える課題解決のために、「地域外の視点を取り入れたいという集落」と「市内のローカルな魅力に興味のある人(集落以外の方)」などをマッチングし、地域の魅力や課題解決のヒントを作り出す企画です。現在、平成31年度の受け入れ集落(先着1集落)を大募集しています。

募集締切: 平成31年4月30日(火)
注意事項: 受け入れ集落の要件につきましては下記までお問い合わせください。
主催: いちのせき市民活動センター
問合せ: 0191-26-6400

イベント

あぜ道マルシェ

学校の帰り道のようなワクワクを感じられるイベントです。地域の味力を楽しむパエリア作り(有料)や農業マシンの搭乗といった「体験」、大東リンゴの生キャラメルや七輪であぶって食べるしいたけなどの「食べもの」、手作りアクセサリー販売といった「作家もの」の3つのコーナーが楽しめます。

日時: 平成31年4月14日(日)
場所: 大東町渋民の田んぼのあぜ道(県道262号線と国道343号線が交わる信号を南に曲がり、砂鉄川を渡った先の左側)
主催: 変集プロダクション-FUN-
問合せ: 090-2970-3290(芦)

イベント

柴館公園 桜まつり

涌津地区の桜の名所で初めての桜まつりが開催されます。集落公民館や地元企業等による出店、ステージ、カラオケ大会(自由参加)、賞品争奪大ジャンケン大会などを行います。公園の桜の開花期間中は、ライトアップ(18時~20時)も行います。

日時: 平成31年4月20日(土)
10時30分~16時30分
場所: 柴館公園
(住所: 花泉町涌津字館地内)
※会場周辺には駐車場がありません。花泉総合福祉センター発着の無料シャトルバスをご利用ください。
主催: 涌津市民センター
問合せ: 0191-82-4067

イベント

平成31年度 飛ヶ森キャンプ場びらき

自然豊かな飛ヶ森キャンプ場が今年もオープンします。開会行事のほか、根山打ち囃子、金管バンド演奏、手打ちそばの早食い大会(当日参加受け付け)、植樹祭、お昼は野外炊飯体験(数量限定で豚汁・おにぎりをご用意)も行います。

日時: 平成31年4月21日(日)
10時~13時
場所: 飛ヶ森キャンプ場内
主催: 飛ヶ森キャンプ場びらき実行委員会
問合せ: 0191-56-2950
(事務局/奥玉市民センター)

イベント

フラワーフェスティバル

花苗鉢花の販売やこども縁日、食品販売などご家族で楽しめる春のフェスティバルです。豚汁のお振舞い(10時30分から数量限定)、ステージ発表(合唱、須川サンバ、大正琴)、出店、規格外花苗の詰め放題(200個限定)などを行います。

日時: 平成31年4月21日(日)
10時~13時
場所: ルンルン
(住所: 一関市萩荘字大袋177)
主催: 社会福祉法人 平成会
ルンルン・第2ブナの木園
問合せ: 0191-24-3115

イベント

第49回岩手県南・宮城県北 神楽大会

岩手県南・宮城県北地方で伝承されてきた南部神楽10団体が出演し、団体の部と個人の部で技等を競い合い、審査と表彰が行われます。南部神楽の保存や伝承、資質向上などを趣旨とした大会です。多くの方のご来場をお待ちしております。

日時: 平成31年4月29日(月・祝)
9時開会 9時30分開演
場所: 一関市立厳美中学校体育館
入場料: 1,000円(プログラム料含む)
主催: 岩手県南・宮城県北神楽大会実行委員会
問合せ: 080-1673-2159(佐々木)

まちの写真展

スタッフがまちの1コマを切り取ります。

作品名 「KAITTER」



「俺は手書きの書イッター」。見かけると思わず立ち止まって読んでしまう大東町摺沢のスーパ「パサージュユマツかわや」のユニークな看板。商品紹介や店主・鈴木さんが暮らしの中で感じたことなどほぼ日替わりで更新されています。

Q&A

みなさんの「知りたい」にスタッフが応えます。

河川敷でイベントをする場合、どんな手続きが必要ですか？

河川敷をイベント会場に使う場合、「河川敷使用許可」の申請が必要になります。基本的には国土交通省の岩手河川国道事務所一関出張所が窓口ですが、場所によっては市が管理している場合もあります。

なお、河川の中で活動する場合は漁業権などの関係で許可申請が必要となる場合もあり、内容によっては1か月以上時間がかかることもあります。